

I 徳島県のすがた

主要指標

◎ 県域	東西約 107km、南北約 79km	◎ 県総世帯数	298,480世帯	〔平成17年10月1日〕 〔国勢調査〕
◎ 県土面積	4,145.90km ² (平成19年10月1日)	◎ 県内総生産額	2兆7,392億円 (平成17年度)	
◎ 県総人口	809,950人 (平成17年10月1日)	うち農林水産業	669億円	〔国勢調査〕
男	384,635人	◎ 県民所得 (分配)	2兆2,331億円 (平成17年度)	
女	425,315人	◎ 1人当たり県民所得	275万7千円 (平成17年度)	

沿革

徳島県の前身である阿波国は大化の改新（645年）と呼ばれる政治改革によって成立した。

それは、吉野川流域の「粟の国」と県南の「長の国」を合わせて「阿波の国」を置いたと伝えられる。

徳島は、古くから淡路（阿波路）を通じ、近畿との交通が頻繁で、平安時代の官道としてもこのルートが使われるなど、近畿の政治・文化の影響を強く受けている。

明治維新後一時期高知県に含まれたこともあったが明治13年（1880年）に、ほぼ現在の徳島県が発足した。

徳島県の行政区画は平成18年3月31日現在8市15町1村である。

自然

本県は、四国の東南部に位置し、山地が多く県土面積のおよそ8割を占めている。

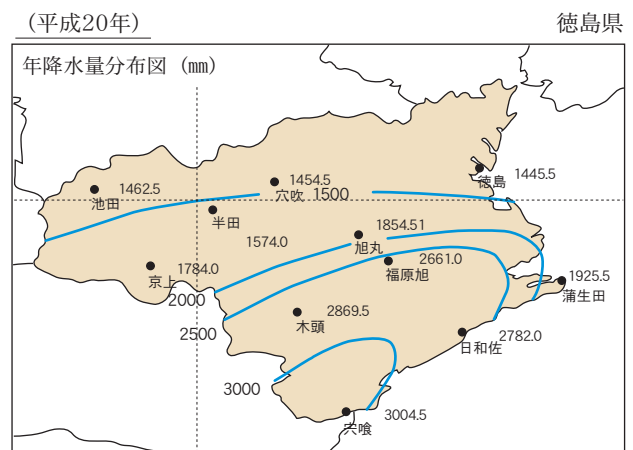
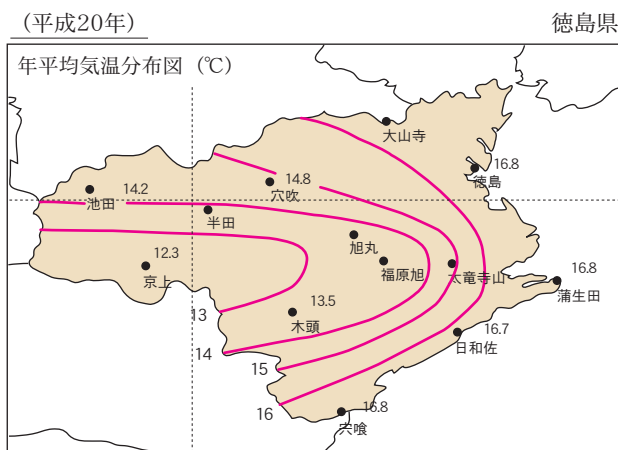
四国第2の高山である剣山（1,955m）を中心とした四国山地が県を南北に分け、県の北辺には讃岐山脈が東西に走り、香川県との境をなしている。この両山地の間を縫って流れる吉野川（四国三郎）は、水源を高知県に発し三好市池田町から東流するにつれ、広くくさび型となって農業の中心地帯である徳島平野を形成している。

気象

気候は温暖多雨の地域と瀬戸内海気候の一部の地域からなっており、日照時間も多い。

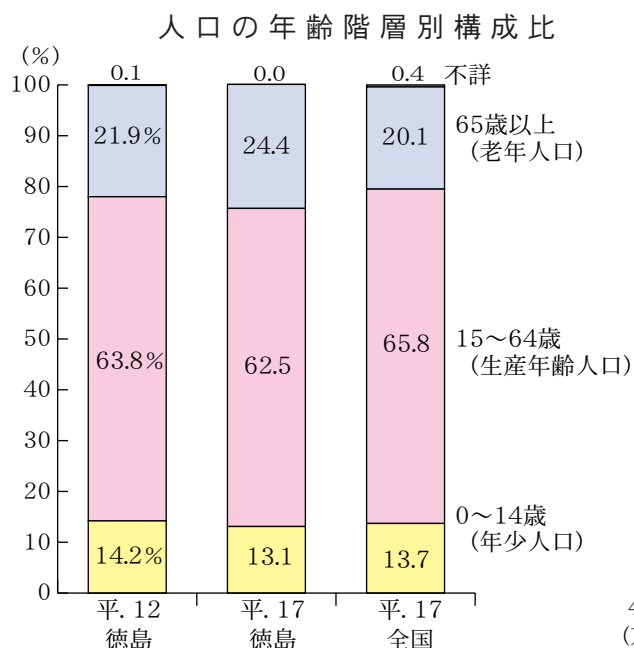
年平均気温分布図

年降水量分布図

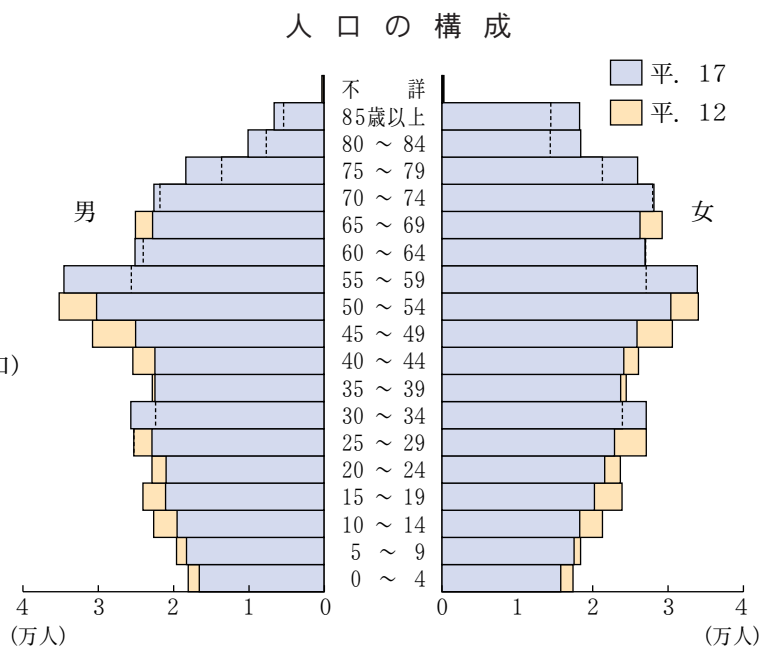


資料：徳島地方気象台「徳島県の気象年報」

人 口

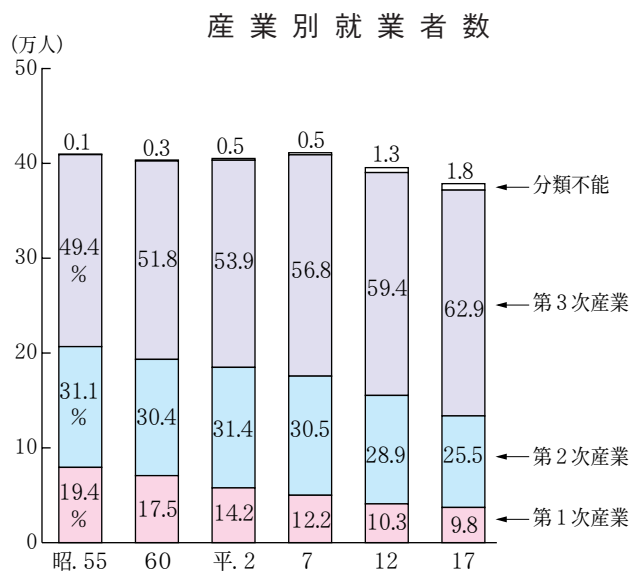


資料：総務庁統計局「国勢調査報告」



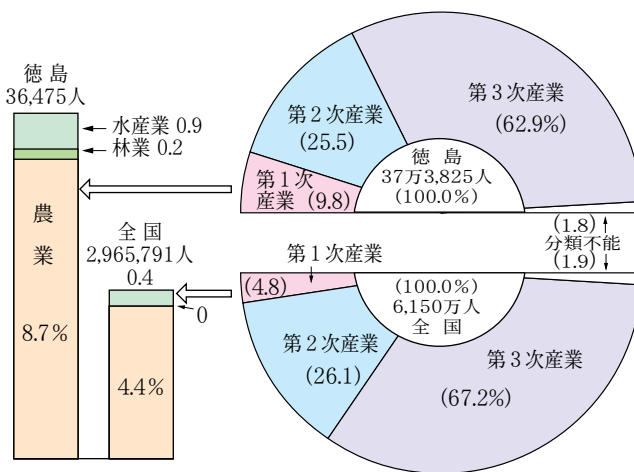
資料：総務庁統計局「国勢調査報告」

就 業



資料：総務庁統計局「国勢調査報告」

就業者の産業別構成比較 (平. 17)



——第1次産業の就業者は約4万人——

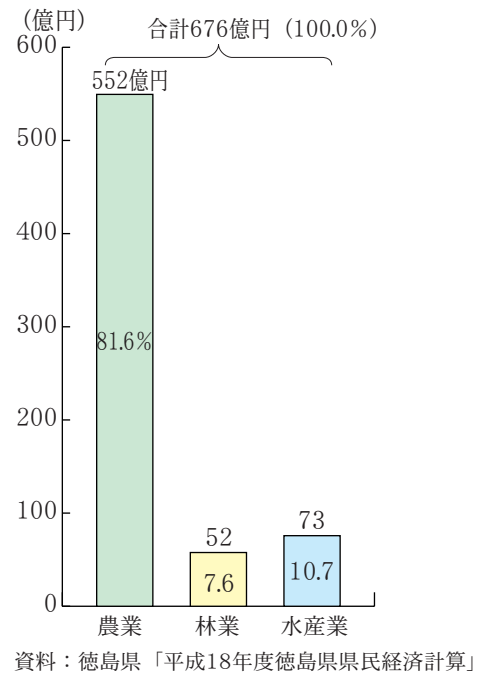
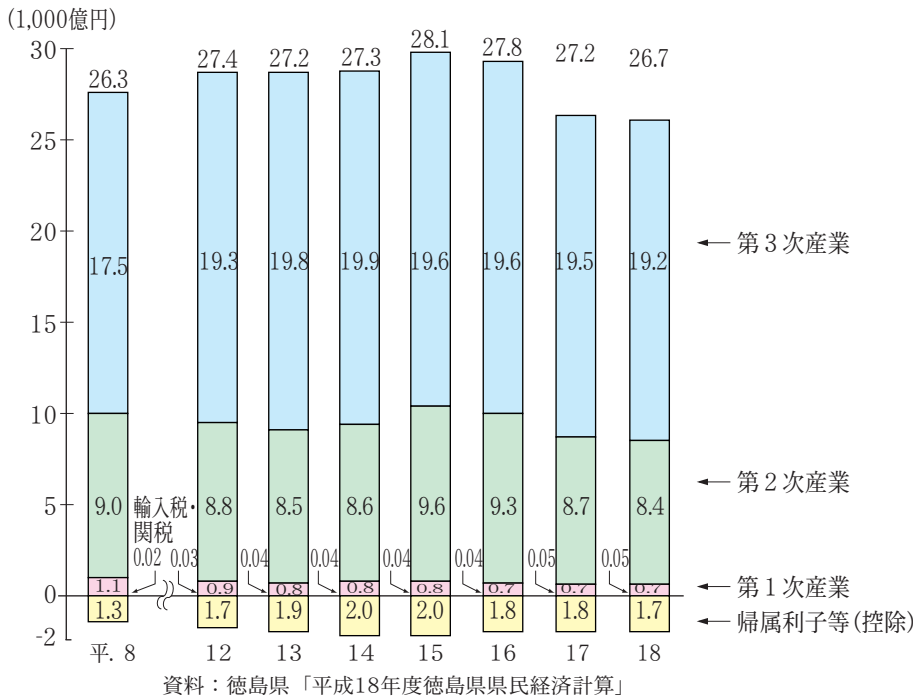
平成17年の国勢調査における本県の総人口は80万9,950人で、平成12年に比べ1万4,158人減少した。年齢階層別の構成比をみると、65歳以上の高齢人口が24.4%を占め、全国平均を4.3上回っており、5年間で2.5ポイント上昇した。

一方、産業別就業者数をみると第1次産業は3万6,475人で、平成12年に比べ3,877人(9.6%)減少した。

■ 経 済

経済活動別総生産

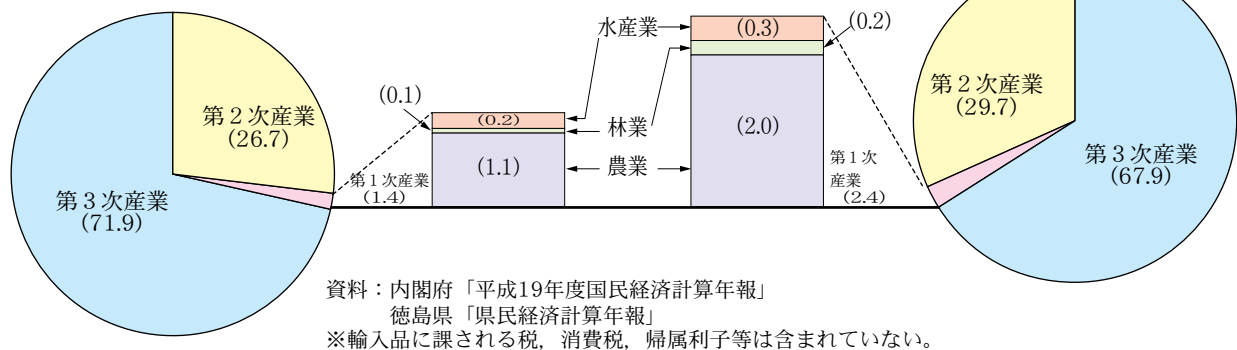
第1次産業生産額(平.18)



経済構造の国との比較(平.18)

全国(平成18年度)
総生産額=100.0%

徳島(平成18年度)
総生産額=100.0%



——農林水産業のウエイトが高い徳島——

平成18年度の県内総生産は、名目2兆6,701億円、前年度比2.2%減、実質2兆9,138億円、前年度比1.9%減少した。

また、第1次産業は7.3%減の676億円で、林業が3.4%増の52億円となったが、最もウエイトの大きい農業が7.0%減の552億円、水産業は15.6%減の73億円となった。